

書評

[評者]

山中克郎

諏訪中央病院総合内科



Pallium Canada 緩和ケアポケットブック

(原著: Pallium Palliative Pocketbook, 2nd ed)

丹波嘉一郎・大中俊宏 監訳

●A5変 頁408 2017年8月

定価: 本体4,800円+税

[ISBN 978-4-89592-890-8] MEDSi 刊

監訳者の大中俊宏先生と諏訪中央病院で一緒に働いたことがあります。患者に優しいばかりではなく、医療スタッフや他科の医師にも誠実に対応される姿を見て、全国から講演に招聘される人気の秘密がわかりました。

本書を手にとってまず思うのは、表紙のデザインがおしゃれです。様々な色が融合しているのはチーム医療を象徴しているそうです。緩和ケアのシンボルであるオレンジ色の風船に黄色と緑色が混じり合っているようにも見えます。本書の原型は20年前にでき、2008年にはカナダ国内の標準化された緩和ケアマニュアルとなりました。セミブラインド製の査読を用いている点がユニークです。査読者の名前は公開されていますが、誰がどのような査読のフィードバックをしたか著者には知らせないというものです。この方法により本書の信頼性を高めています。

白衣のポケットに入るサイズで408ページなので、どこにでも持ち歩くことができます。いま話題になっているACP(アドバンス・ケア・プランニング)の具体的な進め方や悪い知らせを伝える(SPIKES)方法など、患者や家族とのコミュニケーション手法について詳細な解説があります。どのようなシチュエーションで、どう言葉をかけるかということまでが細かく記述され

ているのは大変嬉しいです。「尊厳の促進」(尊厳を維持するケア)という用語を初めて聞きました。患者にとって最も大切なこと、自分をこのように覚えて欲しいと望むことについて語るきっかけを提供することのようです。

がん治療に直接携わらないプライマリ・ケア医にとっても、疼痛コントロールは大切な知識です。この本では最大の69ページを費やして記載されています。私のように麻薬の使用に不慣れな医師も最新知識をわかりやすく学べます。

後半は緩和ケア中に起こりうる様々な病状に応じた治療のアドバイスが具体的に述べられています。たとえば、せん妄や出血に対する対応が詳細に記載されています。非癌性疾患についても言及されています。最近、比較的急速に進行するALS患者の訪問診療をしました。この本を読んでいれば、もっと適切に対応ができていたと悔やまれます。

高齢化社会を迎え、緩和ケアは多くの医師にとって、必ず知っておかなければならない医学知識となりました。こんなに進歩しているのかと気づかせてくれる最良の本です。診察机の近くに置き、ケースに遭遇するたびに何度も読み直したくなる素晴らしいマニュアルです。